

小笠原村教育委員会教育長
桐川 勲 様

小笠原村立母島小学校長
井口 寛隆
(公印省略)

令和 5 年度 小笠原村立母島小学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

【教育目標】

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を図る。

一. 意欲的に学ぶ生徒 一. 自らきたえる生徒 一. 社会のために尽くす生徒

【基本方針】

教育目標を達成するために、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体・安全」を基礎となるものとして設定する。その基礎を元に築きあげていくものとして「常識」「学年(学級)の力」「心の交流」を大切にする。更に基礎を支えるもの(土台)として「地域との相互連携」「組織的・計画的・円滑な学校運営」「信頼される教職員」の充実を図っていく。

2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目及びその実績

【重点課題として設定した項目】

・『確かな学力』全教科、領域において楽しく分かりやすい授業を展開し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るとともに、それらを活用して考えたことを広げたり、深めたりする力を育成する。

・『豊かな人間性』9年間を通して子供の成長を考え、基本的な生活習慣や規範意識、協調・共生の意識をもつ児童を育成する。

・『健やかな体・安全』家庭・地域と連携して健康的な生活習慣を形成し、体力向上に関わる学校全体の課題や各児童の課題解決に取り組む。

【実績】

・『確かな学力』小笠原村学力調査において、学年が上がるにつれてスコアの数値が横ばい、もしくはやや下がっている状況がみられる。2, 3年生におけるスコア(国語、算数)は、全国と比較するとほぼ平均的であることから低学年段階での学習が定着していることが確認できる。調査結果を受け、獲得した基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るべく、教科によっては教師を複数配置できる環境を活かし、個に応じた学習支援を進めた。また、令和5・6年度小笠原村小中一貫教育研究推進指定校として「表現する力」の育成に励んでいる。児童・生徒の授業の振り返り等を見ると、授業が進むにつれて既習用語が使われるなど、「表現する力」の向上が見られる。今後さらに検証方法を検討しながら「表現する力」が「確かな学力」にどうつながっていくのかを研究していく。

・『豊かな人間性』基本的な生活習慣を育成するために各学期初頭に「あいさつ運動」を行った。当番日以外にも玄関口で挨拶する児童や自主的に挨拶週間を設定する学年が見られ、時刻を意識した行動

ができるとともに自尊感情の育成に寄与した。また、「いじめ・不登校のない学校づくり」を実現するために、毎週木曜日の生活指導夕会では児童の小さな変化についても報告し合い、生活アンケート実施後は全員面談を行うことにより、問題の早期発見・解決に努めた。

・『健やかな体・安全』今年度の体力テストの全校児童の結果を見ると、A・B評価が58%、CD評価が42%であった。種目では、反復横跳びで高得点を取る児童が多かった。事前にテストの実施方法を理解する時間を設定したことや普段から様々なスポーツに関わる機会が多い結果であると考えられる。ただし、児童間の結果の乖離が大きいため、個人票を保護者に返却する際には健康的な生活習慣を送るために家庭との連携を求めた。

3 関係者評価の概要

・学校評価アンケートは経年変化を見るため、平成28年度からほぼ同じ内容16項目（ただし、項目数は対象者によって変わる）、5件法で11月に実施した。今年度のアンケート対象者は「地域協力者(14項目)5名」「中学校教員(16項目)10名」「小学校教員(16項目)9名」「中学校保護者(16項目)14家庭」「小学校保護者(16項目)20家庭」「5年生以上児童(10項目)7名」「生徒(10項目)14名」。回収率は「地域協力者100%」「中学校教員80%」「小学校教員66.6%」「中学校保護者85.7%」「小学校保護者85%」「5年生以上児童100%」「生徒92.8%」だった。

・学校評価アンケートにおいて児童、保護者の合計肯定率が最も高かった質問は「学校行事は、充実したものになっていると思うか」であり、児童100%、保護者94.1%を示している。これは、日常生活の様式が戻り、学校行事を多くの方が参観できる機会が増えたこともあるが、積極的に広報したことも信頼される評価になったと考える。

・学校評価アンケートにおいて児童、保護者の間で最も評価が分かれ、合計の肯定率が最も低かった質問は「学校はいじめの早期発見、予防に努めていると思うか」であり、児童100%、保護者58.8%(そのうち4名は「わからない」を回答)であった。これは、児童に対しては日常的に小さな変化に対しても声をかけているが、保護者には、分からないと回答した方を含め4割弱の方に学校の取組が伝わっていないことが考えられる。保護者会やPTAの介護を通じて、積極的に広報するようになっていく。

・学校評価アンケートにおいて地域からの肯定率が100%だった項目は「子供の個性、能力を伸ばす工夫」「小中一体化の取組」「生徒の生活態度等に対する適切な指導」「適切な防災計画、避難訓練」「学校行事の充実」「各種便りやホームページによる情報提供」「学校施設の開放及び有効活用」であった。これはコロナの影響も少なくなり、授業、行事など学校の様子を見ていただける機会が増えたこと。学校だよりを全島配布することにより情報が伝わった結果であると考えられる。

・学校評価アンケートにおいて地域からの肯定率が最も低かった質問は「教育目標が分かりやすく示された上で、教育活動が行われているか」であり、50%であった。9月に行われた開校50周年記念式典後のアンケートや自由記述欄にも「(式典に対して)学校側が目指す方向性が見えなかった」「地域に見えない中で準備が進められていた」などの意見もあった。式典準備を始めた昨年度はコロナ禍にあり、縮小方向で準備を進めていたが、その方向性が地域に伝わっていなかった可能性が大きい。今後、学校運営協議会の再開も含め、地域と話し合いながら進めていく方向性を模索していく。

4 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組 ①	確かな学力 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・週2日程度、登校後の10分間のベーシックタイムを活用し、各学級担任が学習課題を提示し、学習を進めている。 ・小笠原村教育委員会研究指定校として「表現する力」について研究を進めている。また、教師が発問や課題提示の仕方を工夫することにより、児童が自らの考えを表現する力の向上に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特性、個人の課題に合わせた設定をしているが、中学年以降の定着を向上させる必要がある。レディネステストで得た情報を基に授業内での紀州事項の確認を今後も確実に継続していく。 ・今年度はまだ研究途中であるが、授業の振り返りの記述に既習事項の単語が増え、表現力は高まっているように感じる。今後様々な表現方法を設定し、さらなる向上を目指す。
取組 ②	豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との人間関係を深めるため、年3回の生活アンケートを行うとともに、担任との2者面談を行っている。 ・道徳の授業では全教員が輪番で指導に関わることにより、多面的・多角的に考えさせる授業を展開した。ただし、授業の振り返り等については、変更すると生徒が混乱する恐れがあることと、変化が見取りにくいいため、学年で統一した様式で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートの内容を基に面談を行うことで、児童の抱える問題にいち早く対応することができた。学校評価アンケートでは、保護者の理解を得ることが不十分なこともあり、積極的な広報を継続していく。 ・指導内容は基より、指導者が変わることで展開の仕方も変わり、より多面的・多角的に考えさせる授業を行うことができた。また、振り返りについても、統一した様式を用いることで生徒の判断力・心情・実践意欲と態度の変化に気付かせることができたと考える。
取組 ③	健やかな体・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの学校全体結果を見ると、持久走の全国Tスコアが49.01と最も低い。それを改善するため12月に行われるロードレース大会の練習時から自分に合った目当てを設定させるとともに、全体での総走距離を視覚化させることで所属感、貢献感をもたせることで意欲的に取り組ませる授業を展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードレース大会の個人成績から見ると自己ベストを更新、または昨年度の記録を大きく上回る生徒が数多くいた。また、態度からも意欲的に取り組む姿が多くみられ、個人目当ての作成、総走距離の視覚化は成果があったと考える。

5 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

・小笠原村小中一貫教育研究推進指定校

教育目標にある「母島を誇りに思い」をより発信できる生徒を育てるために「表現する力」の育成に力を入れる。各授業の振り返りを丁寧に行うことで、生徒自身が「表現する力」が身に付き、向上していることを実感できるような授業の展開を目指す。2月にはその成果を広く発信できるように準備を進めていく。

・信頼される学校

教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りをもち、法令等を遵守し、信用失墜につながる服務規律違反がないようにする。そのために、毎月行われる小中学校別の部会で管理職による服務研修を行う。また、毎月東京都から届く服務レター及び服務事故報告を回覧し周知することにより服務事故を起こすことの重大さについて理解させることにより信頼される教職員にする。

授業、学校行事等の公開を積極的に行い教育活動について理解を深めていただくとともに、計画的に地域諸活動に参加することで地域との相互連携・協力を密にし、外から見える学校づくりを推進することで信頼される学校にする。

*本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。